

(仮称)高円寺学園の新たな通学区域の指定について

平成 32 年 4 月に開校予定としている（仮称）高円寺学園（施設一体型小中一貫教育校）の通学区域の素案を作成しました。今後、これを基に保護者や学校関係者、地域の皆様のご意見をお聴きしながら、指定に向けた取組を進めていきます。

1 通学区域の指定時期

平成 31 年度に決定

※平成 28 年度に開始した通学区域の特例措置の終期を含め、平成 31 年度に決定する必要があります。

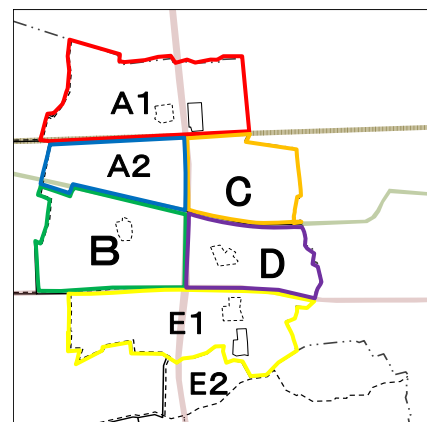
2 通学区域の指定に関する基本的な考え方

- 小中一貫教育の更なる推進に資する観点から、これまでの保護者や学校関係者等の意見を踏まえ、小学校と中学校の通学区域の整合を図ります。
- 具体的な通学区域は、平成 28 年度以降の児童・生徒の就学実態を考慮します。
- また、新たな通学区域指定後における（仮称）高円寺学園及び隣接する小中学校の児童生徒数・学級数の推移とともに、普通教室数等の施設状況を踏まえ、それらの学校の適正規模の確保にも留意します。

3 基礎データ：新入学 1 年の住基人口と就学先

【現在の通学区域】

	小学校	中学校
A1 地域	杉四	高円寺
A2 地域	杉八	高円寺
B 地域	杉八	高南
C 地域	杉三	高円寺



【小学校】

	28年度				29年度				30年度			
	住基人口	杉四	杉八	左記以外	住基人口	杉四	杉八	左記以外	住基人口	杉四	杉八	左記以外
A1 地域	37	30	1	馬橋3、国私3	41	35	0	馬橋4、国私2	44	38	0	国私3、馬橋3
A2 地域	15	2	8	杉三1、馬橋1、国私2、その他1	18	2	13	国私3	12	1	8	杉十1、杉三1、その他1
B 地域	26	0	16	杉六6、杉十3、その他1	26	0	15	杉六6、杉十2、国私3	32	4	15	杉三2、杉六6、杉十4、その他1
C 地域	29	8	0	杉三13、杉十1、国私5、その他2	41	5	4	杉三20、杉十4、国私7、その他1	35	12	0	杉三14、杉十3、国私6

【中学校】

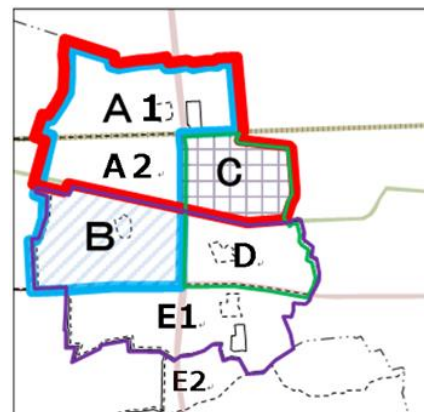
	28年度			29年度			30年度		
	住基人口	高円寺	左記以外	住基人口	高円寺	左記以外	住基人口	高円寺	左記以外
A1 A2 地域	51	25	高南1、杉森2、阿佐ヶ谷1、国私21、その他1	51	23	高南1、杉森2、阿佐ヶ谷2、国私15、その他6	54	34	杉森1、国私19
B 地域	29	3	高南9、阿佐ヶ谷6、松ノ木1、国私8、その他2	29	7	高南8、阿佐ヶ谷4、国私8、その他2	15	4	高南6、阿佐ヶ谷3、国私2
C 地域	28	7	高南7、国私13	25	4	高南9、国私9、その他3	36	4	高南15、国私15、その他2

4 新たな通学区域【素案】

大きく以下の理由から、(仮称)高円寺学園の新たな通学区域は、(A1・A2)と(B)を合わせた区域(現在の杉並第四小及び杉並第八小の通学区域を合わせた区域)とします。

【各地域の指定校の状況】

地域	小学校		中学校	
	現	新	現	新
A1	杉並第四	高円寺学園	高円寺	高円寺学園
A2	杉並第八	高円寺学園	高円寺	高円寺学園
B	杉並第八	高円寺学園	高南	高円寺学園
C	杉並第三	杉並第三	高円寺	高南



(理由)

- ・小・中学校の通学区域が整合する。
- ・小中一貫教育の連携校グループ(高円寺中、杉並第四、杉並第八と高南中、杉並第三、杉並第十)の取組を尊重することができる。

【新たな高円寺学園(A1+A2+B)を想定した児童・生徒数、学級数】

	31年度		32年度		33年度		34年度		35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
小学校	462	17	465	17	497	17	558	19	608	20
中学校	146	6	163	6	163	6	169	6	168	6
(参考)高南中	(171)	(6)	(188)	(6)	(195)	(6)	(180)	(6)	(191)	(7)
高円寺学園(小・中)	608	23	628	23	660	23	727	25	776	26

【参考：杉並第三小の児童・生徒数、学級数】

	31年度		32年度		33年度		34年度		35年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
杉三小	191	7	201	8	219	9	246	10	263	11